

平成 27 年 3 月 12 日

小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会 殿

小笠原村観光協会	会長	金子 隆
小笠原母島観光協会	会長	平賀 洋子
小笠原村商工会	会長	安藤 光一
東京島しょ農業協同組合	理事	大澤 彰
小笠原島漁業協同組合	組合長	菊池 勝貴
小笠原母島漁業協同組合	組合長	佐々木幸美
一般社団法人小笠原ホエールウォッチング協会	会長	吉井 信秋
特定非営利活動法人 小笠原野生生物研究会	理事長	安井 隆弥
特定非営利活動法人 小笠原自然文化研究所	理事長	堀越 和夫

世界自然遺産科学委員会及び各種検討会の地元開催等について（要望）

日頃より、小笠原諸島世界自然遺産地域の維持管理に御尽力頂き、まことにありがとうございます。

さて、世界自然遺産登録前より実施されている外来種対策では、危機的な絶滅危惧種の回復など喜ばしい成果が現れています。その一方で、外来種のリバウンドや、生物間の複雑な負の反応も起こっていると聞きしています。

現在、小笠原では、生態系の動きを慎重に見極め、その変化に素早く対応することが、管理上、大変重要な時期に差し掛かっていると考えます。

遺産地域及び森林生態系の保全管理においては、種間相互作用を念頭に入れて、順応的な管理を進めることが、管理計画および各種事業計画で謳われております。

現局面にたち、世界自然遺産地域のよりよい順応的管理の実現のため、別記の事項を要望致します。

記

要望 1 . 小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会の年 1 回地元開催

[目 的] 自然再生や修復事業等により、「現場」でおきている変化を、科学委員会委員がリアルタイムに把握する。現場で得た最新情報を、翌年度の管理計画等にフィードバックすることで、順応的管理に役立てる。

要望 2 . 事業検討会およびワーキングの地元開催

[目 的] 各事業における、現地の進捗視察及び住民意見にもとづいた論議検討を行う。

[内 容] 各種の事業検討会及び、ワーキングを地元で開催する。特に、住民が生活する父島と母島に関わる事業では、小笠原を主会場、内地を副会場とする。検討会前には、事業現場で、担当官 / スタッフを含めた現地エクスカージョンを実施する。

要望 3 . 世界自然遺産 / 森林生態系保全に関わる事業連携のためのスケジュール設計

自然再生・森林生態系関連事業を、連携的、順応的、俯瞰的に実施するために、各検討会、科学委員会、森林生態系保全系会議について以下のスケジュールを設計する。

【開催時期の提案】

- ・ 毎年 11 ~ 12 月に各種検討会を開催する。
 有人島及び島民生活に関わるものは、地元を主会場として開催する。
- ・ 毎年 12 月に地域連絡会議を開催する
- ・ それらを受けて総括する科学委員会を実施する / 例 12 月 3 便目
- ・ 科学委員会時期に森林生態系保全関連の主要会議も日程調整する。

各事業検討会を、同時期に現地開催することで、関係機関が実施する各事業（及び検討会）の実質的な連携を計る。

年末までの（11 ~ 12 月）開催により、現場情報のフィードバック及び、次年度計画（予算案等）への反映を可能として、順応的管理を進める。

現地把握及び、順序立てた検討会のスケジュール設計により、科学委員会 / 森林生態系保全委員会として、俯瞰的に各種事業の進捗を捉えることを可能とする。

- * 委員よりのヒアリングでは、毎年の開催時期が決まっていれば、多忙な委員もスケジュールリングしやすいという意見を得ている。

以上